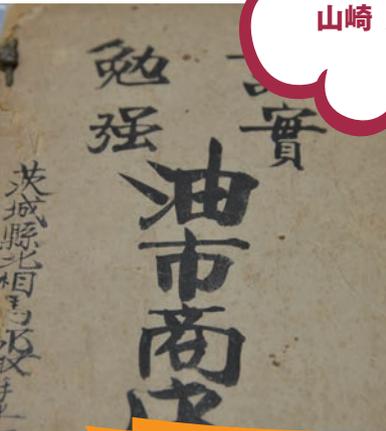


6代目
山崎 真一さん



日本古来の伝統を継承する人形店

6代目ということですが、昔から人形店だったので、**か？**

人形だけを扱うようになったのは父の代からです。最初は「油市(あぶいち)」という名前の通り、油屋でした。創業当時は電気がなかった時代で、行燈(あんどん)などの油の量り売りをしていました。その後、ロウソクのメーカーになり、電気が普及してからは雑貨屋になり、雑貨の中のひとつとして人形を扱っていたのです。そして取手駅前に大型ショッピングセンターができるときに、専門店でないときき残れないだろうということ、人形の専門店にしました。

私が継いだのは平成12年です。バブルのときは恩恵を受けていたようですが、今はそういうわけにはいきません。しかも東日本大震災は五月人形を売り出す直前だったので、ガラスケースが割れ、きれいに飾り付けをした展示物が全部倒れるなど大きな被害を受けました。苦難に直面したこともありましたが、真面目に生きていけば、世の中は見捨てないんだなと感じています。

仕事をやるうえで大切にしていることは何ですか？

どれだけ良いものをどれだけ安く提供できるかということです。私たちはメーカーとの関係を築いて、メーカーに足を運んで商品を選んでいま

す。問屋を通すなら、カタログを置いておいて注文すれば良いのですが、仕入れて売るだけのところはみんな撤退していて、本物しか生き残らない時代だと感じています。良いものを安く提供するために努力を惜しみません。

今後の店舗運営について、どのようにお考えですか？

「やらないで悔やむなら、やって悔やんだほうが良い」と思っていますよ。失敗も経験、スキルになります。経験値こそ宝です。失敗を恐れていたなら何もできないと思うのです。私たちは毎年新しいことを企画するなどチャレンジしています。もちろんあまり上手くいかないこともあります。3つやって1つ成功したら良いほうだと思っていますので、たくさんチャレンジして、失敗も次に活かそうと努めています。これからもチャレンジし続けていきたいですね。

